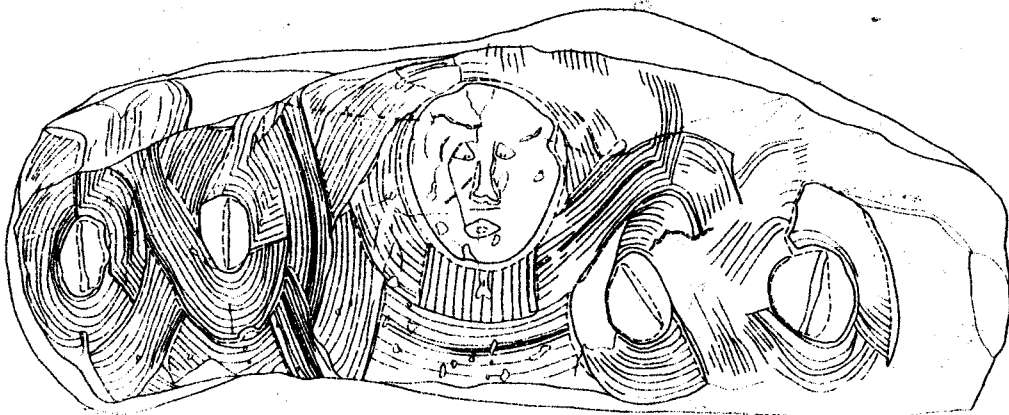
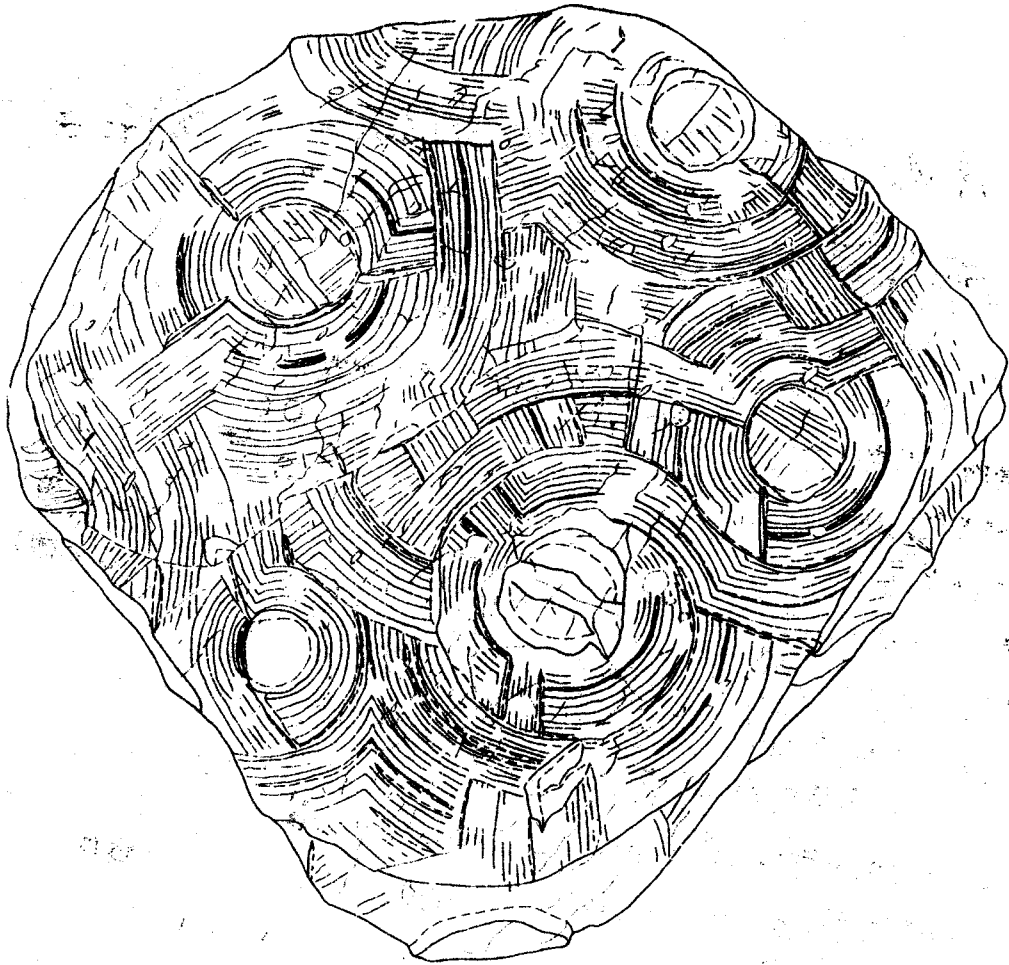


吉備の弥生墳丘墓を訪ねて



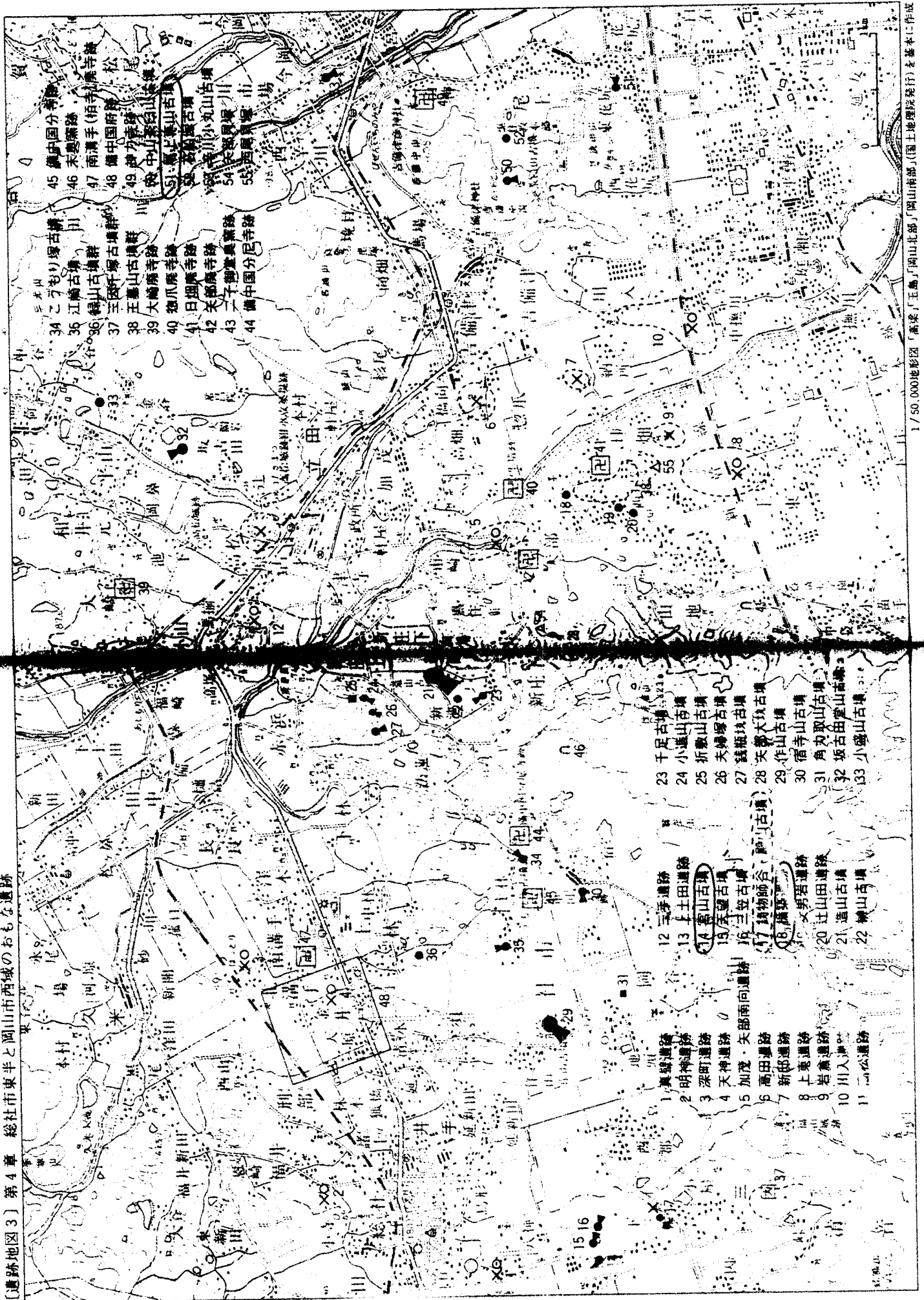
備前史探訪の会 古墳研究部会

平成8年11月10日(日)

「吉備の弥生墳丘墓を訪ねて」探訪予定表

- | | |
|-------------------------|--------------|
| (1) 福山駅北口出発時刻 | 8:00 |
| ☆高屋の金敷寺裏山墳丘墓などについては車中説明 | |
| (2) 黒宮大塚墳丘墓（古墳）到着 | 9:00 |
| (3) 黒宮大塚墳丘墓（古墳）出発 | 9:30 |
| (4) 箭田大塚古墳到着 | 9:40（トイレ休憩） |
| (5) 箭田大塚古墳出発 | 10:20（トイレ休憩） |
| ☆立坂墳丘墓については車中説明 | |
| (6) 西鉄工団地遺跡公園到着 | 10:30 |
| (7) 西鉄工団地遺跡公園出発 | 11:00 |
| ☆長砂古墳、伊与部山墳丘墓については車中説明 | |
| (8) 宮山遺跡・展望台古墳・三笠山古墳到着 | 11:30（昼食） |
| (9) 宮山遺跡・展望台古墳・三笠山古墳出発 | 13:00 |
| (10) 吉備路資料館到着 | 13:20 |
| (11) 吉備路資料館出発 | 14:00 |
| (12) 楯築遺跡到着 | 14:15 |
| (13) 楯築遺跡出発 | 15:00 |
| (14) 王墓山古墳公園到着 | 15:10 |
| (15) 王墓山古墳公園出発 | 15:30 |
| (16) 尾上車山古墳到着 | 16:00 |
| (17) 尾上車山古墳出発 | 16:30 |
| (18) 福山駅北口着 | 17:40 |

〔遺跡地図3〕 第4章 総社市東半と岡山市西域のおもな遺跡



- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1 真鍮遺跡 | 12 三芳遺跡 | 23 千足古墳 |
| 2 明神遺跡 | 13 上土田遺跡 | 24 小蓮山古墳 |
| 3 深町遺跡 | 14 葦山古墳 | 25 折敷山古墳 |
| 4 天神遺跡 | 15 矢野古墳 | 26 夫婦塚古墳 |
| 5 加茂・矢部南向遺跡 | 16 三笠古墳 | 27 鼓瓶塚古墳 |
| 6 高田遺跡 | 17 貨物師舎・跡山古墳 | 28 天都大塚古墳 |
| 7 新田遺跡 | 18 廣草 | 29 作山古墳 |
| 8 上栗遺跡 | 19 男吾遺跡 | 30 宿寺山古墳 |
| 9 岩倉遺跡 | 20 辻山田遺跡 | 31 角丸取山古墳 |
| 10 川入遺跡 | 21 蓮山古墳 | 32 坂古田窪山古墳 |
| 11 二公遺跡 | 22 神山古墳 | 33 小盛山古墳 |

備陽史探訪の会 古墳研究部会

秋の古墳巡り～吉備の弥生墳丘墓を訪ねて～

はじめに

今回は、岡山県の南部、古代の地域でいえば備中国南部を中心にめぐります。

この地域は、「吉備の国」と呼ばれる古代の有力豪族の勢力が、古墳時代にあったところで、造山古墳や作山古墳など全国的にみても大規模な前方後円墳が築かれたり、のちに備中の国分寺が建てられるなど、古代史において注目されているところでもあります。

けれども、今回見学するのは、古墳時代にさかのぼる弥生時代の遺跡です。

弥生時代は、日本列島に稲作が伝わった時代で、これまでの狩猟・漁労・採集といった自然を基礎にする縄文時代から、飛躍的に社会が変化した時代でもあります。

その特徴をいくつか上げるとすると、

- ①水田を経営する集落が一般的になった。
- ②集落の回りには濠をめぐらせているものがある。
- ③生産力の増加に伴い、集落同士の格差や集落内部での階層差が現れた。
- ④集落をまとめる「クニ」が現れた。
- ⑤大きな墓に葬られるようなリーダーが現れた。

などがあります。

典型的には、奈良県の唐古遺跡や佐賀県の吉野ヶ里遺跡などがあります。わたしたちの住む福山地域では、神辺町の大宮遺跡や御領遺跡が代表的な集落遺跡です。

また、弥生時代と聞くと、「魏志倭人伝」に登場する女王卑弥呼の名前を思い出される方も多いと思います。卑弥呼の治めた邪馬台国がどこにあったのかは、古代史永遠のテーマかもしれませんが、こうした、地域を越えた広い範囲の集落のつながりが日本列島に生まれるのが弥生時代です。

そして、再び岡山県南部です。

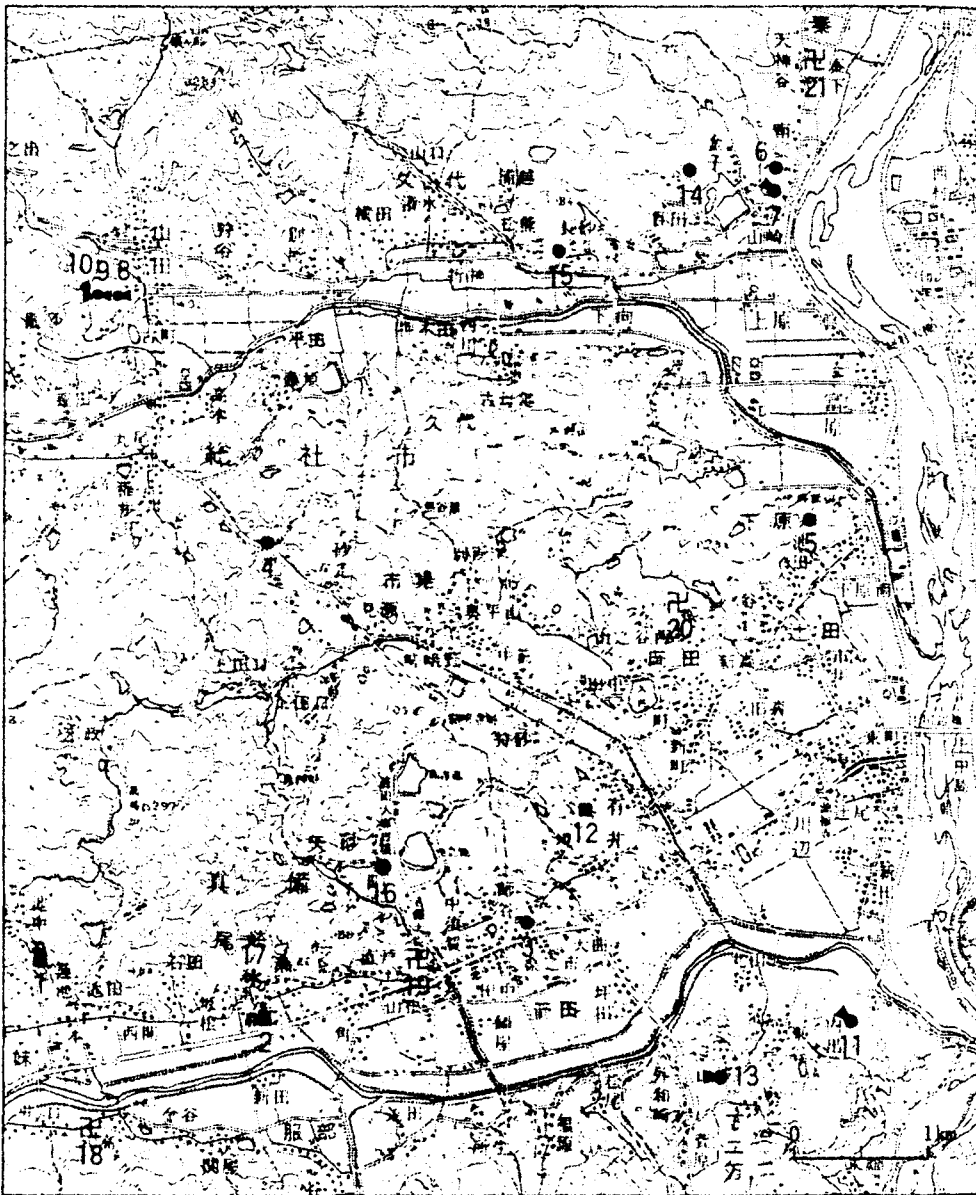
弥生時代の後半、西暦でいえば3世紀ごろ、岡山県内には、倉敷市の楯築（たてつき）遺跡や真備町の黒宮大塚（くろみやおおつか）遺跡、総社市の宮山（みややま）遺跡など、特定の人を葬った大きな墓が作られます。このことは、この地域で指導的な役割を果たした首長（リーダー）の権威が、これまでになく強大なものとなったことを示しています。

ひとびとの間で、利害の衝突があれば、それは社会の混乱の原因ともなります。この混乱をまとめるためには指導者である、部族の首長（リーダー）に大きな権限が与えられたと考えられます。

小さな争いが、しだいに大きな社会の問題に、小地域での対立が、さらに広い地域での構想に発展してゆくと、ますます大きな権威の力によって解決せざるを得なくなります。古墳時代への社会の変化はこの動きの中から現れてきます。

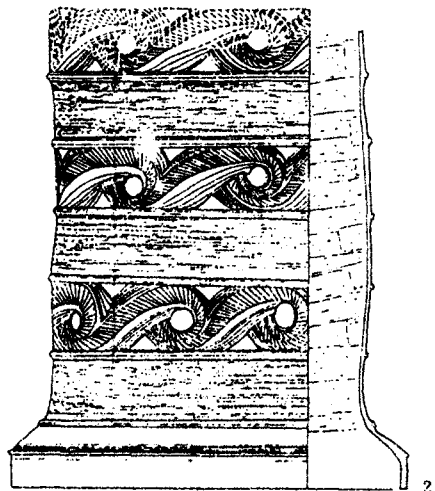
今日は、吉備の古墳時代前夜の首長の墓を見学するわけです。政治・社会的に大きな変革の時を遺跡から感じていただければ幸いです。

参考文献 ・高橋護 「岡山の歴史」 瀬戸内海の夜明け」 山陽新聞社 1988

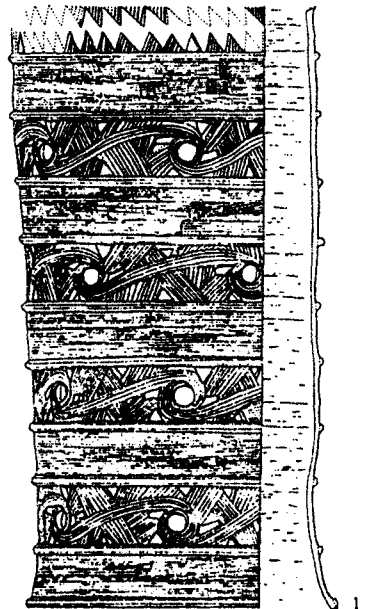


- | | | | |
|-----------|-----------|-------------|---------------|
| 1 妹の銅鐸出土地 | 7 金子5号墳 | 13 二万大塚古墳 | 19 箭田麿寺跡(吉備寺) |
| 2 黒宮大塚 | 8 砂子山1号墳 | 14 金子石塔塚古墳 | 20 岡田金剛寺麿寺跡 |
| 3 西山古墳 | 9 砂子山3号墳 | 15 長砂古墳 | 21 秦麿寺跡 |
| 4 立坂遺跡 | 10 砂子山4号墳 | 16 箭田大塚古墳 | |
| 5 伊与部山遺跡 | 11 天狗山古墳 | 17 墓地質地券出土地 | |
| 6 秦上沼古墳 | 12 竜王塚古墳 | 18 八高麿寺跡 | |

小田川下流域と新本川流域のおもな遺跡



2



1

西山遺跡

○今回のキーワード ～弥生墳丘墓と特殊器台・特殊壺～

今日何度も耳にする言葉として、「墳丘墓」と「特殊器台・特殊壺」があります。

そこで、まずこれらの言葉の説明から。

これらは、弥生時代後期の吉備を代表する考古資料の一つであると同時に、前方後円墳の成立を考えるうえで、特に畿内と吉備との関係を考えるうえで、欠くことのできないものなのです。

まず、「墳丘墓」です。

文字どおりの意味としては、「盛り土をもつ大きなお墓」と考えてください。ところが、盛り土を持つ墓の典型的なものこそが「古墳」です。前方後円墳に代表される古墳は、盛り土を持った大きな墓そのものです。

考古学の学問としての歴史、または、歴史の考え方そのものの中に、盛り土を持つ「高塚」の墓を「古墳」と呼び、特定の個人（首長）の墓と考えてきました。そして、「天皇陵古墳」に代表される古墳の研究を通して、古代国家の成立を検討してきたのです。

ところが、近年、出土する土器の編年からは明らかに弥生時代のもつとみられる墓で盛り土を持つものが見つかってきました。むしろ、現在では、弥生時代の首長の墓や特定の家族・集団墓の中には、盛り土を持つものが一般的な形であったとも考えられています。となると、「古墳」とそうした弥生時代の「盛り土を持つ墓」の区別がつかなくなってしまいます。

けれども、弥生時代のそうした盛り土のある墓を細かく検討してみると、「古墳」とは明らかに異なる点が認められました。それが、地域色です。弥生時代の盛り土のある墓には各地域でさまざまな形態がみられ、前方後円墳にあるような統一的な規格（古墳の形・埴輪などの外部施設・副葬品のセットなど）がありません。また、大きさの点でも、弥生時代のそれと、初期の古墳との間には差があります。

これらのことから、弥生時代に属する盛り土を持つ墓、中でも比較的大型で、後の「古墳」とのむすびつきが注目されるものについて、「墳丘墓」と呼んでいるのです。そして、吉備の地域は全国的にもこの「墳丘墓」が集中している地域でもあります。

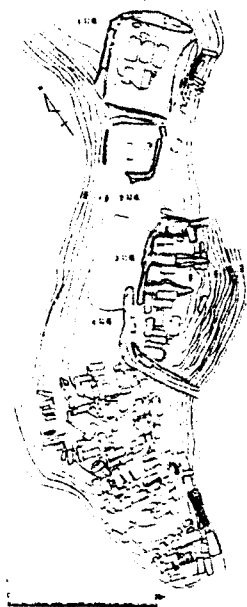
次に「特殊器台・特殊壺」です。この土器は、吉備の弥生時代の墓に大量に備えられている大型の土器で、通常の器台や壺に比べてきわだった特徴を持っています。そして、この土器がルーツとなって、古墳時代の円筒埴輪が生まれることがわかっています。

まず特殊器台ですが、器台と呼ぶ土器を載せる普通のものに比べて、土器の口の部分、胴の部分、脚の部分がそれぞれに強調されています。そして、胴の部分には、横線文・綾杉文・鋸歯文・弧線文など独特の文様が描かれています。

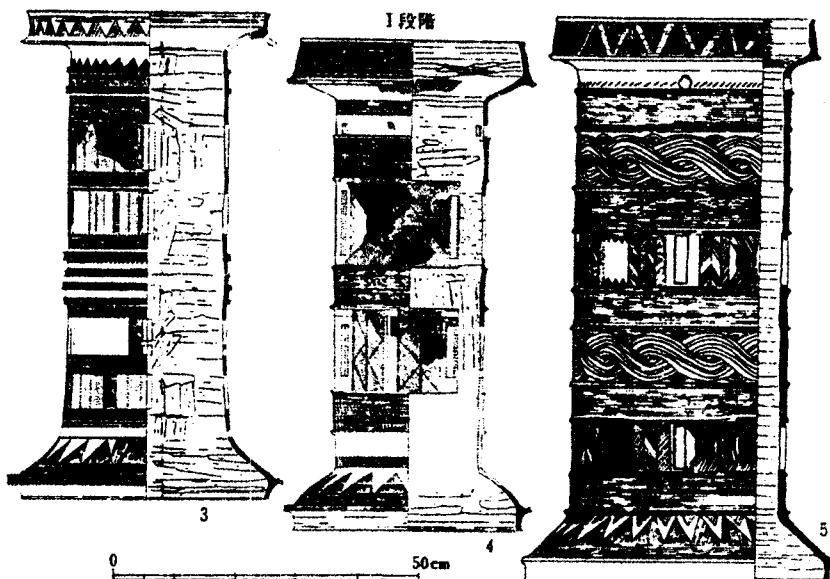
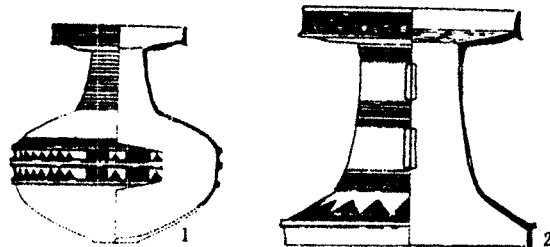
特殊壺は、口の部分が直立気味に強調され、胴の部分も張り出しが強く、タガ状の突帯がめぐらされている特徴があります。

そして、特殊器台・特殊壺ともに、使われている土が吉備南部のものに限定されているそうです。

吉備の墳丘墓では、ほぼ例外なくこれら特殊器台・特殊壺が出土していますから、この地域では同質の葬送儀礼が推定されています。

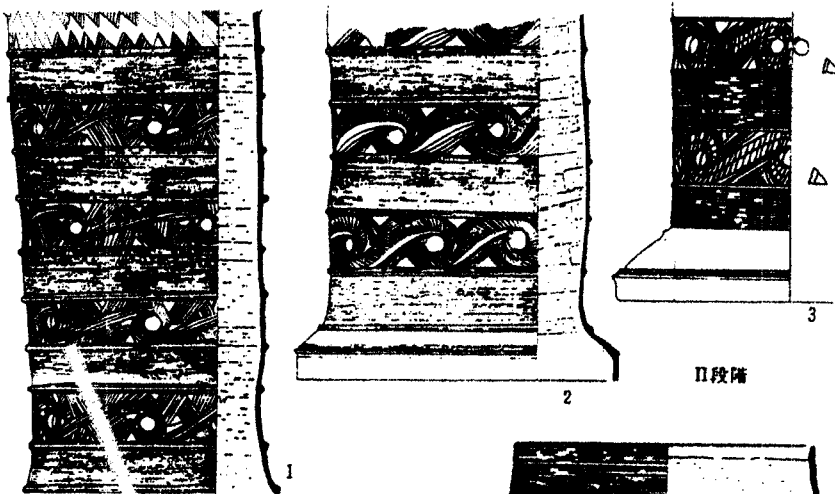


中山 1/1000

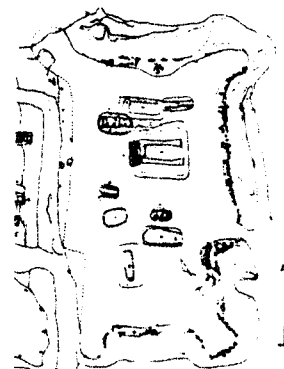
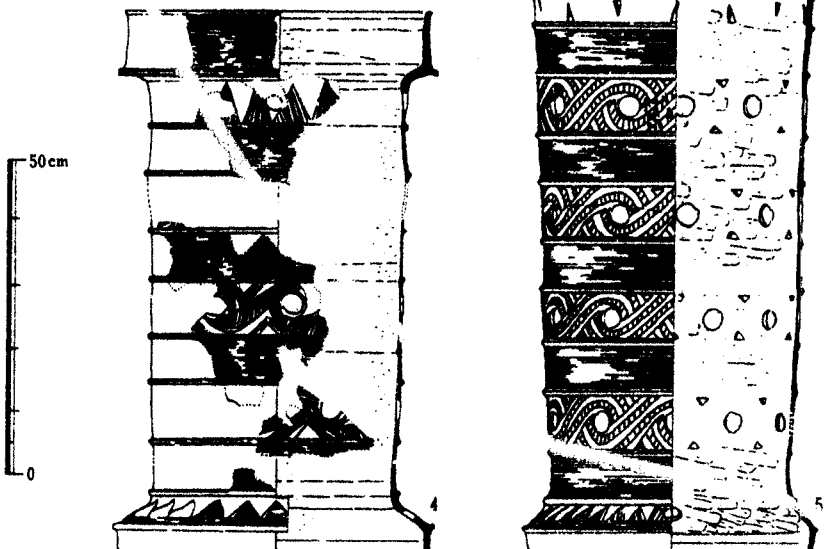


0 50cm

特殊器台変遷図(1) (1・2 矢掛町宇岡山遺跡, 3・4 真備町黒宮遺跡, 5 落合町中山遺跡) <文 151・160・193, 一部改定>



II段階



矢谷 1/500
(網目は土器濶り)

特殊器台変遷図(2) (1・2 真備町西山遺跡, 3 倉敷市向木見遺跡, 4 哲西町西江遺跡, 5 広島県矢谷遺跡) <文 192・42・167・『松』追遺跡群発掘調査報告・図録編』一部改定>

5

(○)特殊器台の編年

特に、特殊器台については型式の変化が著しいことから、その形態と文様の変化から、次のようにその編年（前後関係）が行われています。



まず、立坂型です。

これは、総社市の立坂遺跡出土のものを代表とする型式です。

長い筒状の胴部に波状あるいは逆S字状の複数の弧線帯を繰り返したものを1単位とする曲線の文様と、綾杉文や鋸歯文などの直線の文様とが、横線文帯によって区画されているタイプです。

横線文帯のかわりにタガ状の突帯や、直線文のみで飾られるものもあるなど、この段階では形態的にはまだいささかバラツキがあるようです。

特殊器台の中では、古いタイプのもので、立坂遺跡のほかに、倉敷市の楯築遺跡・真備町の黒宮大塚遺跡などで出土しており、小田川流域の平野と足守川流域の平野に濃密な分布が認められます。

次に、向木見型です。

これは、倉敷市の向木見遺跡出土のものを代表とする型式です。

口径・高さに対してやや太めの胴部を持ち、弧線文帯は横S字状の組み合わせになります。特殊器台のほとんどはこのタイプに属していて、文様には細部にいくつかの違いが認められます。

備中地域では引き続き多くの遺跡が認められますが、備前・美作地域においても遺跡数が著しく増加し、その分布数の最も多いのは、足守川流域の平野になります。また、備後北西部にも分布が広がり、三次市の矢谷遺跡の特殊器台が有名です。

そして、宮山型です。

これは、総社市の宮山遺跡出土のものを代表とする型式です。

向木見型よりも若干細身で、口の部分や脚の部分の簡略化と無文化が進みます。弧線文帯がより一層幅広くなっており、装飾はこの部分に強調されているようです。

宮山遺跡・矢藤治山古墳以外では、吉備の地域では出土例がありません。ところが、一方、大和の地域では奈良県天理市の中山大塚古墳や、西殿塚古墳、桜井市の箸墓古墳などで出土が判明していることから、この型式の時代に前方後円墳が成立したと考えられています。

最後に、都月型です。

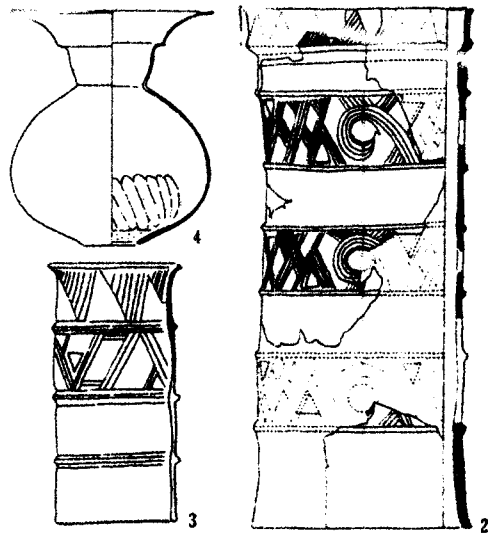
これは、岡山市の都月坂1号墳出土のものを代表とする型式です。

この型式のものは一般に特殊埴輪・特殊器台型埴輪と呼ばれていて、横S字状の弧線文帯はさらに分解して、脚部は筒状のままです。

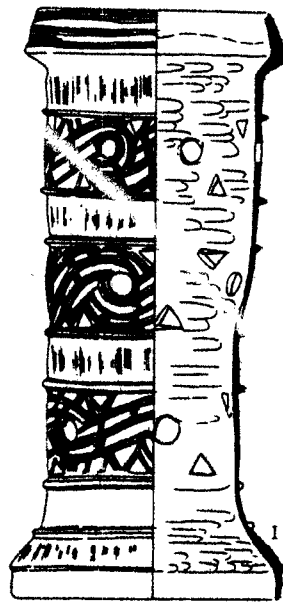
この型式はもはや特殊器台ではないと考えられていて、現に都月坂1号墳のほか、浦間茶臼山古墳をはじめ、初期の前方後円墳において出土例がみられます。

参考文献 ・藤田憲司・柳瀬昭彦「弥生時代」『岡山県の考古学』 吉川弘文館 1987
・宇垣匡雅「特殊器台・特殊埴輪」『吉備の考古学的研究(上)』 山陽新聞社 1992

IV 段階

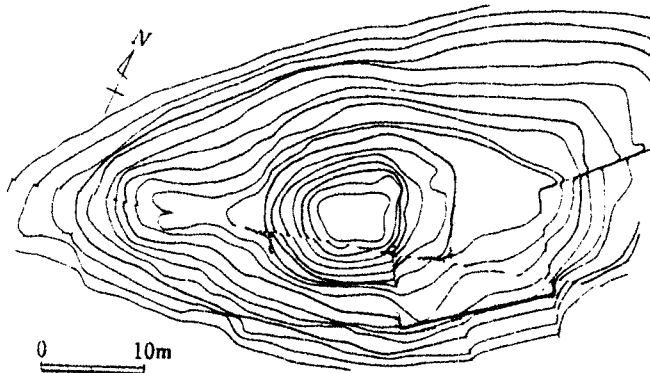


III 段階

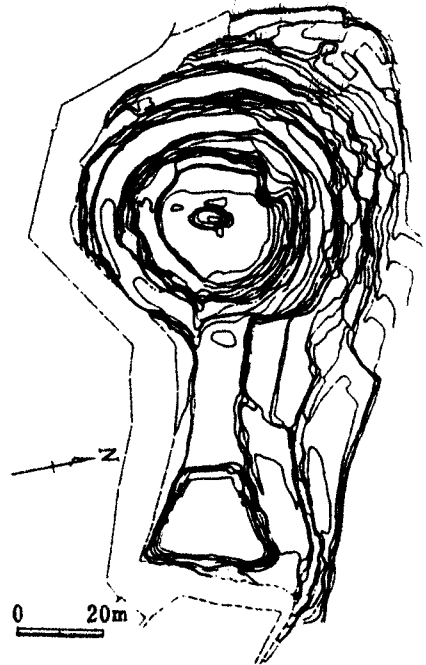


0 50cm

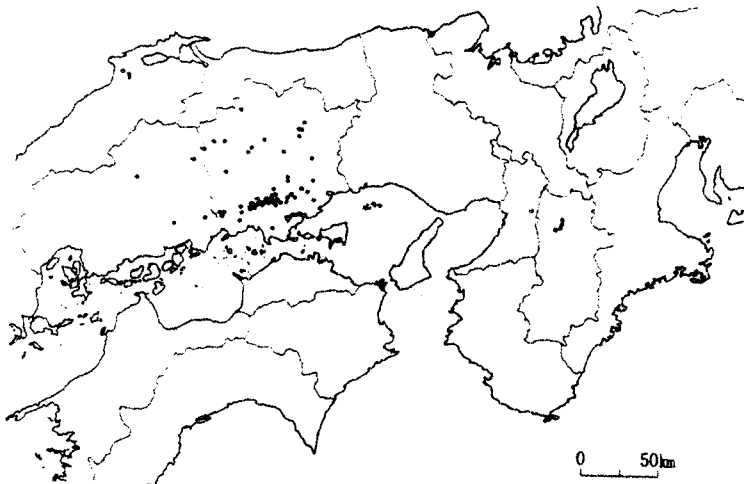
特殊器台変遷図 (3) (1 總社市宮山遺跡, 2-4 岡山市都月坂1号墳) <『土師式土器集成』 2・文 81, 一部改変>



都月坂1号墳墳丘



浦間茶臼山古墳墳丘



特殊器台の分布

それでは、今回のコースについてその概略を説明します。

主として見学する遺跡は

- ①黒宮大塚遺跡（真備町）
- ②宮山遺跡（総社市）
- ③楯築遺跡（倉敷市）
- ④尾上車山古墳（岡山市）

です。黒宮大塚遺跡と楯築遺跡が弥生時代後期後半、宮山遺跡が弥生時代最終末、尾上車山古墳が古墳時代前期のものです。

このほかに、近くを通るものとして、立坂遺跡や鯉食神社遺跡などがあります。

①黒宮大塚遺跡（真備町尾崎）

1977年の調査で、立坂型の特殊器台をもつ北向きの全長60メートルの「前方後円墳」と報告された遺跡です。

ところが、後方部とされた一辺30×20メートル、高さ4メートルの長方形の部分（南丘部）の北側斜面には、列石状の礫群が痕跡的に「前方部主軸」に直交するように認められ、さらに北寄りにはU字状のくぼみが東西に走ることから、それぞれに独立した2個の方形の墳丘墓ではないか、とも考えられています。

南丘部の頂上で、中心から北によった位置で、多量のお供え用の土器を伴った埋葬部が1基確認されています。長さは2.2メートル、幅0.9メートルの竪穴式の石室です。

この石室は、位置的に考えて中心的な埋葬ではないと考えられています。

立坂型の特殊器台は、墳丘の裾部で出土しています。

また、北丘部でも少なくとも4基の墓が確認されています。

・立坂遺跡（総社市新本）

1971年と72年に調査の行われた遺跡で、立坂型の特殊器台の名称のもととなっている遺跡です。

遺跡の北側と南側が破壊されているために、全体の大きさや形は不明ですが、東西径約17メートルのものです。少なくとも10の埋葬施設が確認されていて、家族の集団墓地として利用されたことが推測されています。

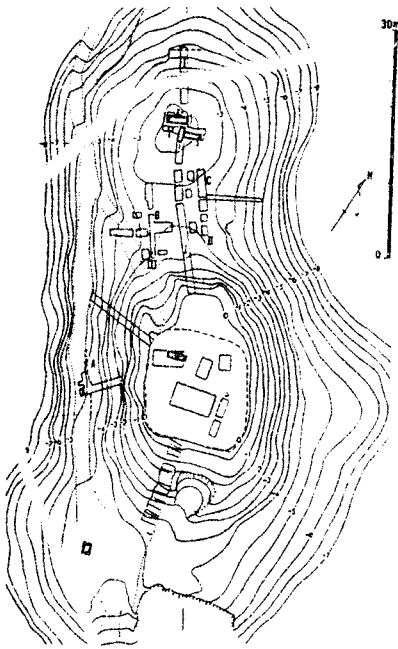
特殊器台・特殊壺は墳丘上で、普通の器台や壺などとともに出土しています。

・伊与部山遺跡（総社市下原）

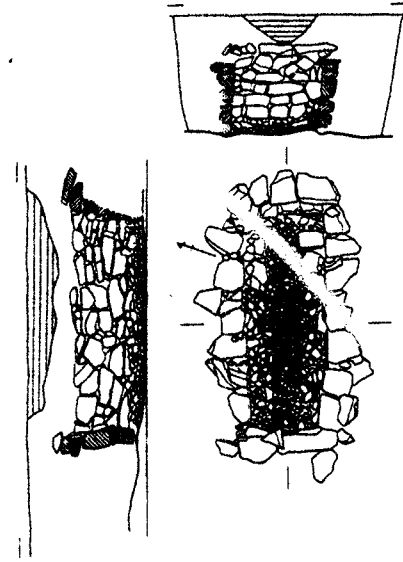
1966年に調査の行われた遺跡で、総社市と真備町にまたがる伊与部山の山頂付近に築かれた墳丘墓です。

東西約6メートル、南北約8メートルの区画の中に、石室が2基築かれていました。遺跡の東側と南側には石列が残されていて、その外側にも小規模の石組みの埋葬施設が7基確認されています。この遺跡も立坂遺跡と同様に、中心の埋葬施設に葬られた人を盟主とする集団墓と考えられます。

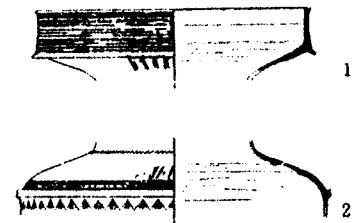
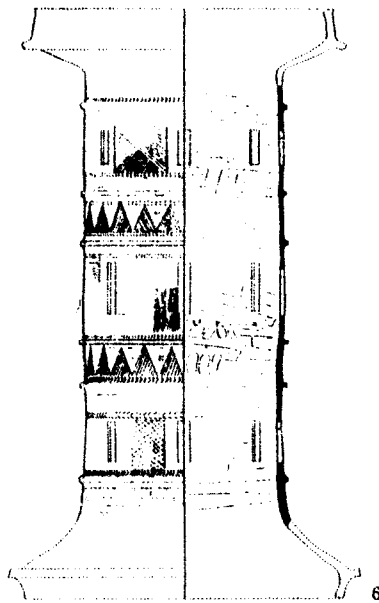
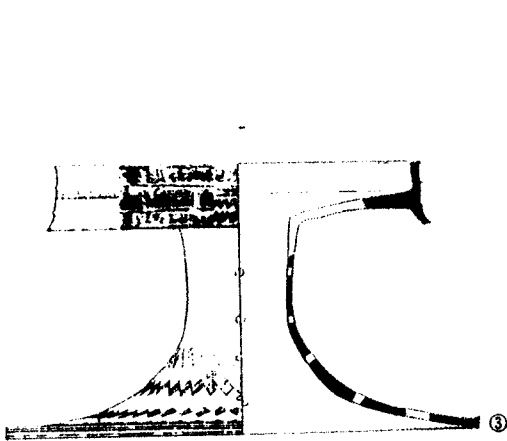
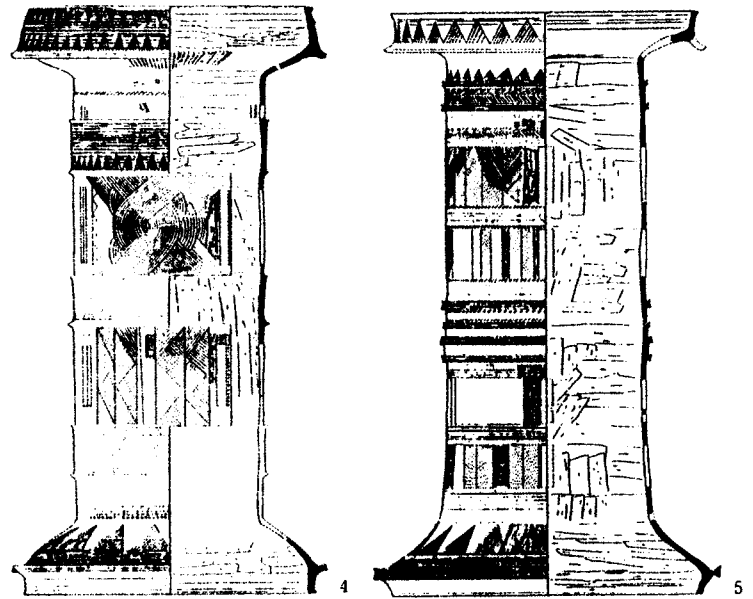
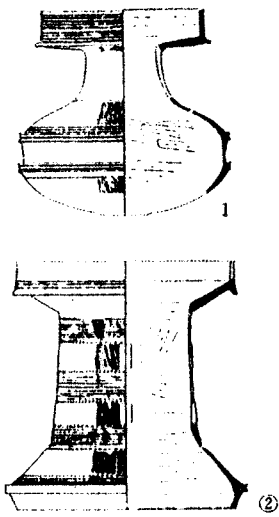
特殊器台・特殊壺は、向木見型のものが墳丘上で見つかっています。



黒宮大塚 1/1000



黒宮大塚主体部 1/80



黒宮北方遺跡

黒宮大塚弥生墳丘墓

○宮山遺跡（総社市三輪）

総社市街の南部、丘陵の先端部に位置する遺跡で、前方部状の突出部をもつ全長約40メートルの墳丘墓1基と、その西側に伸びる尾根筋を中心に素堀りの墓や箱式石棺などが30数基確認されています。

前方部状の突出部をもつ墳丘墓は、前方部の先端部の様子が不明ですが、円丘部の中央には主軸に直交する形で2.7×1.0メートルの竪穴式石室が築かれていました。この石室からの出土遺物には、刀剣2、鉄鏃3、銅鏃1、ガラス小玉1、中国鏡1があります。

また、円丘部分を取り囲むように、その裾部には、円礫を敷いた部分が穹状にめぐっています。おもにこの部分から特殊器台・特殊壺が出土したと言われていて、宮山型の名称がつけられています。

この遺跡のほかにも、宮山の1帯には特殊器台・特殊壺を出土している遺跡があり、また、特殊器台などはもたないものの、墳丘墓と見られる遺跡や初期の古墳が認められることから、注目される場所でもあります。

・ 鋳物師谷遺跡（清音村）

1965年に、土取りに伴う緊急調査が行われたもので、2基の墳丘墓が確認されています。

1号は、径20メートルの方または円形の墓で、2基の竪穴式石室が確認されていて、中国製の鏡や玉類が出土しています。2号のほうは、さらに尾根続きの上側にあって、長方形の墳丘があったと推測されています。少なくとも3基の竪穴式石室と10数基の埋葬施設があったと見られています。

出土した2号遺跡の特殊器台は、立坂型です。

○楯築遺跡（倉敷市矢部）

矢部西山の丘陵の最高所に築かれている遺跡です。1976年から89年まで、7回の発掘調査が行われ、直径43メートル・高さ4～5メートルの円丘を中心に、南北に方形の突出部をもつ（突出部を含めると南北長約80メートル）、双方中円形の墳丘墓であることがわかりました。墳頂部には5個の巨大な立石が環状に連なり、斜面部にもめぐらされています。

埋葬施設は2基確認されていて、そのうちの中央のものは、墳頂部の立石に区画された場所になっています。排水溝を備えた木槨施設をもち、朱を大量に用いた木棺が見つっています。用いられていた朱は30キロを超え、通常の遺跡で見つかるものとはケタはずれに多い量です。

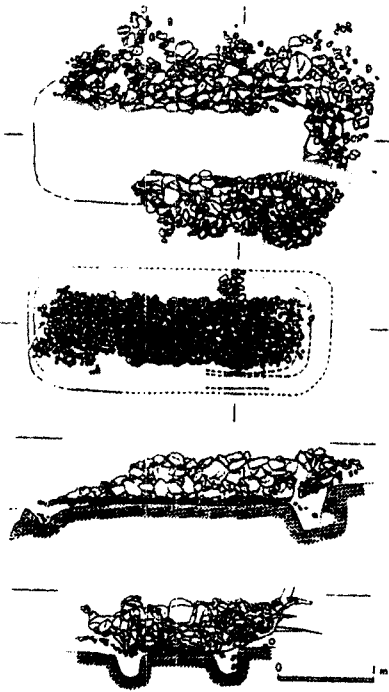
木棺の中からは、鉄剣1、数百のガラス玉と、細身の管玉、メノウ・ヒスイ・碧玉などの玉類が出土しているほかに、棺の上からは特殊器台をはじめとする多量のお供え用の土器、玉類・弧帯石（いわゆる亀石）が出土しています。

特殊器台は、立坂型のものです。

この遺跡は、規模・形態、外部施設・棺の構造・副葬品などの点で、ほかの同時期の墳丘墓をはるかにしのぐもので、おそらく、各地区でそれぞれに首長墓を築いていた集団をさらに広範囲に統括する「大首長」の墓ではないかと考えられています。



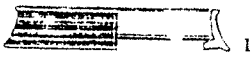
立坂 1/500



立坂日主体 1/80



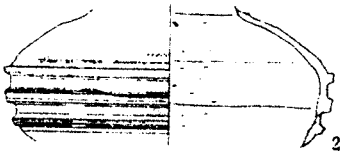
伊与部山 1/500



1



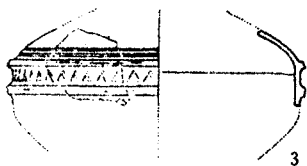
4



2

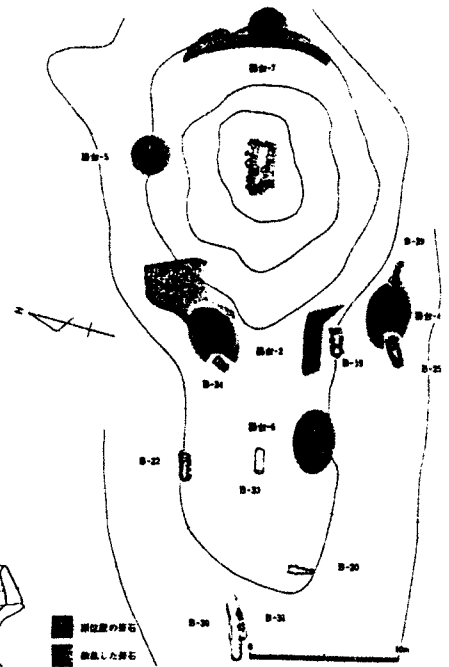


5

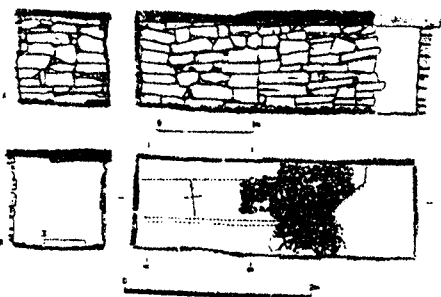


3

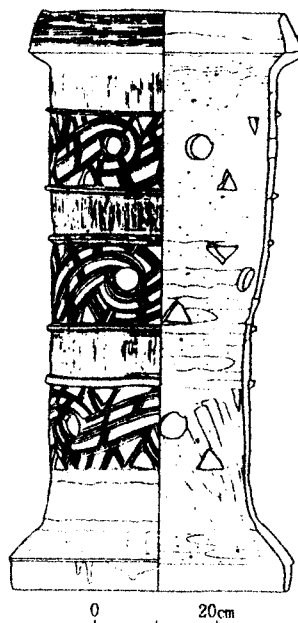
立坂弥生墳丘墓 (1)



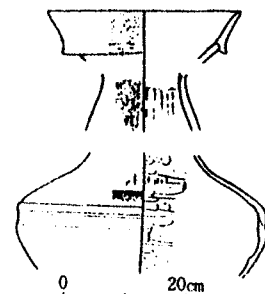
宮山 1/500



辨物師谷1号主体部 1/80



0 20cm



0 20cm

宮山遺跡出土特殊器台と特殊壺
(文献 第5節1から)

・鯉喰神社遺跡（倉敷市）

橋築遺跡の北西約700メートルに位置する遺跡です。

現在鯉喰神社が建てられています。丘陵の先端部の尾根上に築かれた長方形の墳丘墓で、推定の復元値で東西約40メートル、南北約32メートルです。

大正時代の拝殿の改築のときに、南北に長い竪穴式石室が2基並んで認められたと伝えられます。墳丘の表面で特殊器台・特殊壺（向木見型）が採集されています。

（○）尾上車山古墳（岡山市東花尻・尾上）

吉備津神社の祭られている吉備中山の南東の丘陵の先端部に位置する古式の古墳で、築造当時は、山裾にまで海が入り込んでいたと推測されている場所です。

発掘調査は行われていませんが、古墳の主軸はほぼ東西を示し、全長約134メートル、後円部の径は約80メートルです。

前方部の頂は一見したところバチ型に開く古いタイプを見せているだけでなく、全体として3段築成の様子をよくとどめています。

後円部の中央には、主軸に直交する形で厚い粘土に覆われた竪穴式石室の存在が予測されているだけでなく、古式の壺型埴輪も伴うなど、確実に吉備の最古の古墳のグループの一つに含まれる古墳です。

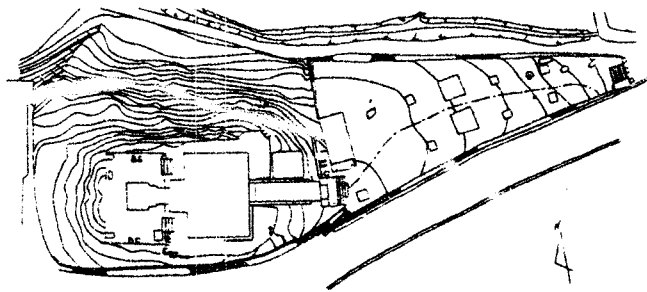
・矢藤治山遺跡（岡山市東花尻・西花尻）

尾上車山古墳の西方に、南向きに築かれた遺跡です。以前は、前方後円墳と見られていましたが、1985年に地元の郷土史家の方が特殊器台を発見したことから、1990年から92年に発掘調査が行われ、円丘部に突出部をもつ全長約37メートルの墳丘墓であることがわかりました。

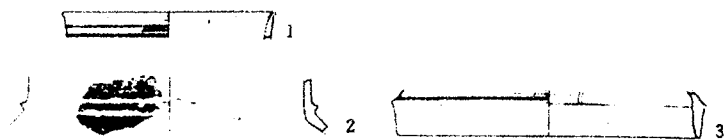
円丘部は径約24メートルで、盛り土により作られていました。ほぼ中央部に、長さ2.7メートル、幅1.0メートルの竪穴式石室が築造されていて、中国鏡1、勾玉、ガラス小玉、小型鉄斧1が出土しています。

突出部の中央付近には、主軸に直交する形で箱型木棺の埋葬も1基見つかっています。出土している特殊器台は宮山型です。

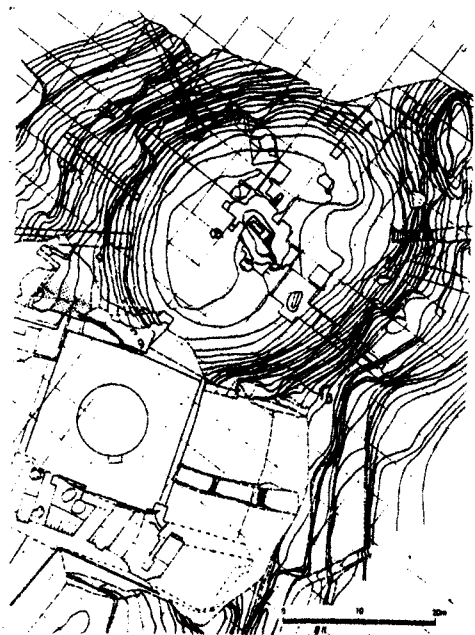
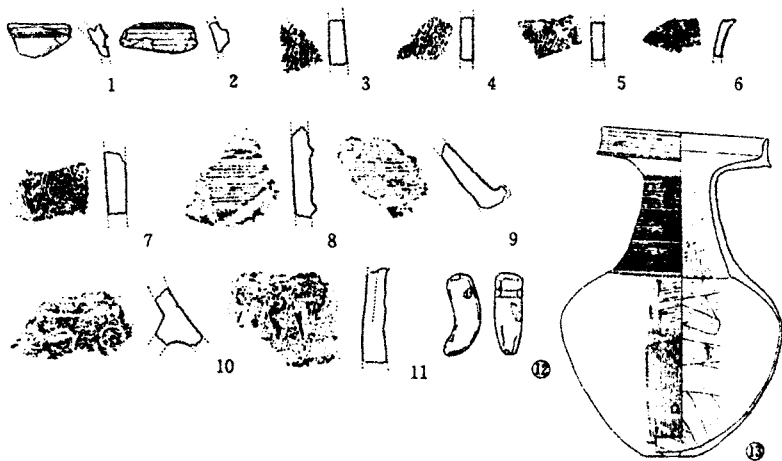
- 参考文献
- ・ 岡壁忠彦・岡壁優子 「日本の古代遺跡 23 岡山」 学生社 1985
 - ・ 藤田謙司・藤原昭彦 「弥生時代」 『岡山県の考古学』 吉川弘文館 1987
 - ・ 葛原克人 「古墳時代」 同上
 - ・ 近藤義郎 「弥生墳丘墓」 『吉備の考古学的研究(上)』 山陽新聞社 1992
 - ・ 同 『伊与部山墳墓群』 総社市文化振興財団 1996
 - ・ 同 『新本立坂』 総社市文化振興財団 1996



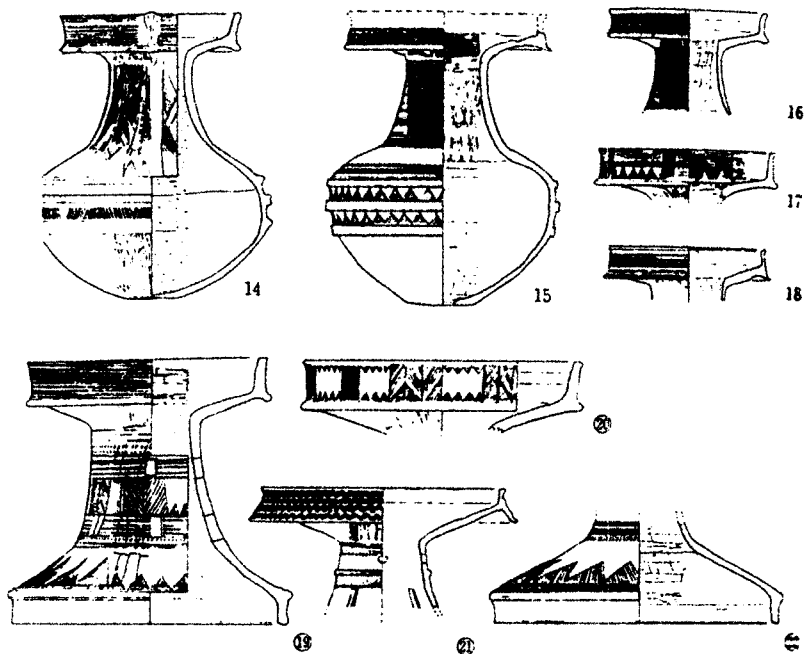
經喻神社 1/1000



經喻神社弥生墳丘墓



彌築 1/1000



彌築弥生墳丘墓

○まとめにかえて

今回のルートは、いわゆる「吉備路」をめぐるものですが、いわば「吉備の国」の”前史”をさぐるルートでした。

そのいずれもが墳墓として用いられた遺跡でしたか、ここで整理してみましょう。

まず、弥生時代の後期の墓は、日常的な生活の場としての集落からかけ離れて、集落を見下ろすような丘陵上が選ばれています。

そして、円形ないし方形に区画された墓には、前方部状の突出部をちつものも現れます。

区画の中に埋葬される状態も、

- ①中心的な埋葬部を認めがたい多人数埋葬のもの、から
- ②多人数埋葬ではあるが、中心的な埋葬ができかかっているもの、
- ③中心的な埋葬が明瞭となるもの、

が現れます。

また、特殊器台や特殊壺と呼ばれる特徴的な「お供え用」の土器が伴うことが多く、岡山県の南部を中心として一定の共通の内容をもつ葬送儀礼が確立していたことが推測されます。葬送儀礼の共通性は、あたかも共通の先祖をいただくかのごとき、擬制的な同族関係の存在を推測でき、こうした同族関係を媒介とする政治的な結合が進んで行く過程を、遺跡から見ることも可能です。

まず、立坂型の特殊器台の段階では、楯築・雲山鳥打1号・鋳物師谷2号・立坂・黒宮（備中南部）のほかには、墳丘のない集団墓地からの出土（備中南部1、美作南部1）などがある程度（そのほか、出土状況不明のものが備後南部で1）で、出土遺跡の分布も備中南部に集中しています。このことから、特殊器台などを用いて首長の葬送儀礼をおこなう墳丘墓が楯築遺跡を中心に成立したことがうかがえます。

次の向木見型の段階では、出土する遺跡数は備中南部で10以上、備前7、美作7、備中北部5、備後北部2となり、この葬送儀礼が吉備の全域に広がったことを示しています。

ところが、次の宮山型になると、吉備での出土はほとんどなくなり（宮山・矢藤治山）、かわって大和の地域の大規模首長墳に現れているのです。

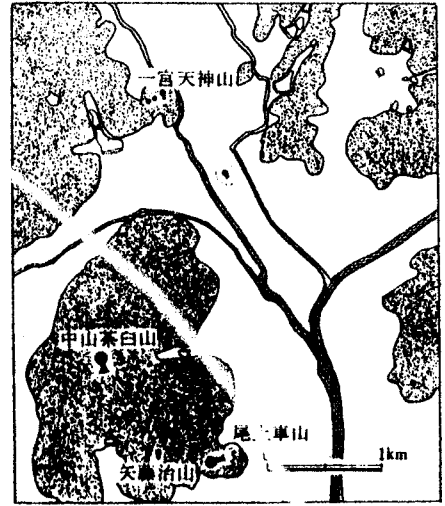
古墳の成立において、この葬送儀礼の要素の一部である特殊器台などが取り入れられていることには、特に注意を払う必要があります。もちろん、古墳の祭式の中には、割竹型木棺のように吉備に出自の求められないものや、板状石材を用いる石室構造には四国東部の影響を考えることもできます。ともあれ、古墳の成立において、吉備の葬送儀礼、吉備の政治勢力が一定の役割を果たしたことは確実に言えるのではないのでしょうか。

ただし、吉備の墳丘墓に見られる一定の共通性は、あくまでも吉備の領域を中心とするものであり、前方後円墳が見せるような全国的な統一性とはそのレベルを異にするものであるといえます。

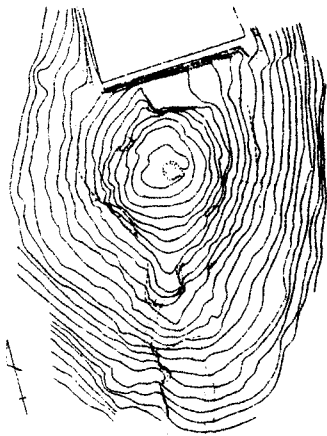
- 参考文献
- ・藤田憲司・柳田彰「弥生時代」『岡山県の考古学』 吉川弘文館 1987
 - ・近藤義郎「弥生墳丘墓」『吉備の考古学的研究(上)』 山陽新聞社 1992
 - ・宇垣匡雅「特殊器台・特殊壺」 同 上



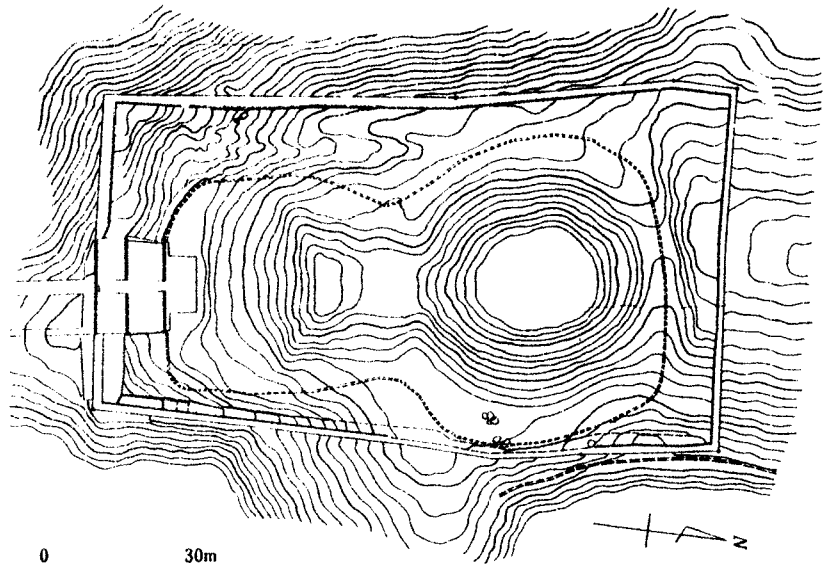
岡山市尾上車山古墳



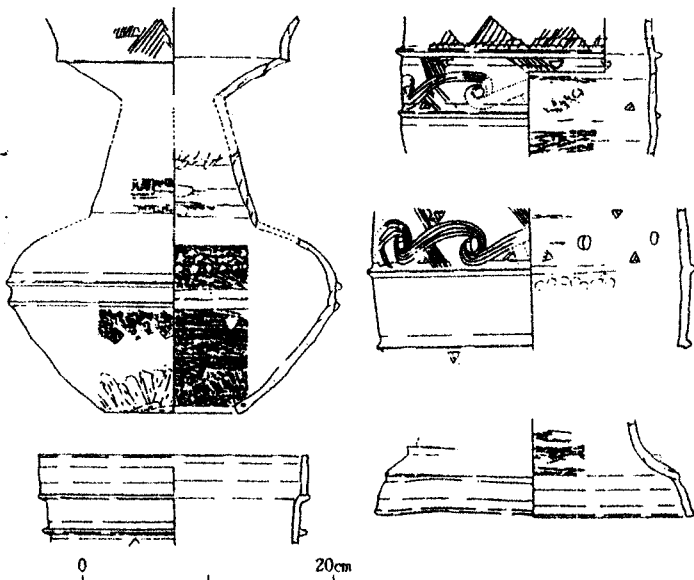
矢野川沿岸地域



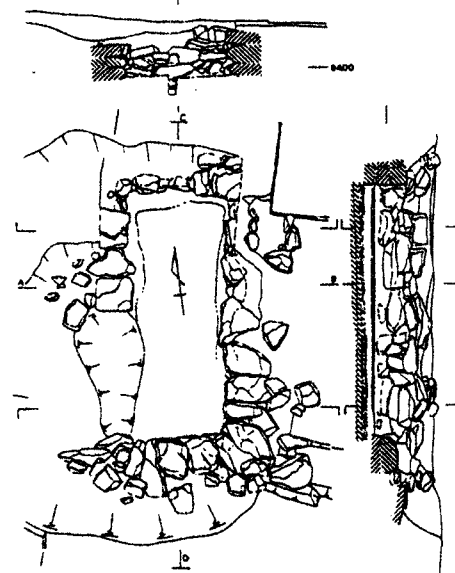
矢野治山 1/500



中山茶臼山古墳墳丘



矢野治山弥生墳丘墓出土特殊器台と特殊壺 (岡崎素田提供)



矢野治山主体部 1/80

備陽史探訪の会

古墳研究部会

福山市引野町2-13-7

☎0849(45)6173

山口哲晶方